

…台風の接近で停電が予想されると、家庭用の発電・給湯器が自動で動き始め、蓄電も開始する…家電大手が今春発売した発電・給湯器「エネファーム」の最新版に搭載された機能だそうです。AIが進化で気象データを活用する企業が増え、食品ロスも抑制するとありました。

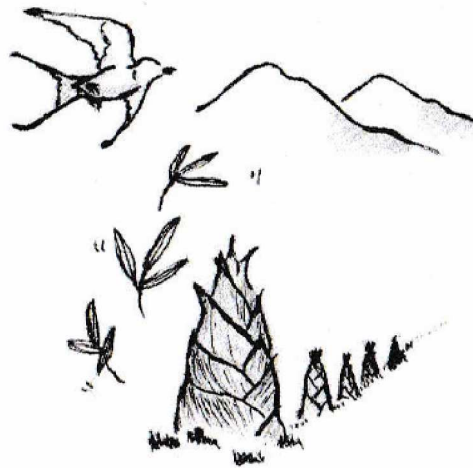
食パンの売り上げが好調だそうです。(4/10 読売夕刊)特に「食パン」はコロナ感染防止で外出自粛、在宅勤務が多くなり自宅で食事をする機会が増えたせいでしょう。数年前から「高級食パン」だけを取り扱う店が進出、並んで買うほどの人気となっています。

戦後日本には平和な時代が続きます、これは誠に喜ぶべきことですが、危機管理能力においては劣ってしまいました。コロナ感染蔓延から1年2か月を過ぎ、未だ出口の見えない状況にあってもう一度「危機管理」「リスク回避」を考える必要があります。

# ドラゴンへの階段 第24回

《エッセイ版》 佐藤 洋祐  
「心のJ-POPとファイター！(中島みゆき)」

皆様、こんにちは！4月、春の盛り過ぎの過ごしやすい毎日、改めて自分の内側に目を向けて、じっくりとその可能性を拡げる試みに丁度良い季節。海外から日本に音楽活動を戻し、日本の歌を唄っていきたくないとそれを演奏に取り入れてから、多くの名曲たちが新しい世界を見せてくれています。これから何回かにわたり、これらの歌を紹介し、それぞれに寄せる私の思いを少しでも言葉にさせていただきます。1番目に紹介させていただきますのは、中島みゆきさんの「ファイター」という曲。



思春期の頃からジャズばかり聴いてきた私には、日本の歌を学びたくて聞きあさり始めたJ-POPの中にあつて、メッセーシの強さや個性の濃さが先行し、初めは身構えて聴いてしまった歌でした。この歌では苦難や悩み、聞くだけで「ああ、可哀想に・・・」という同情の心が沸き起こるような、誰かの告白がいろいろと語られます。最初のうちは、それらへの同情の気持ちに勝って、そんな悲しみや苦勞に立ち向かう人々への励まし。の歌なんだな、と、それはそれで胸を熱くしていました。しかし、何度か歌詞に耳を傾けるうちに、そんな可哀想なエピソードたちと並行して淡々と語られる、産卵のために川を遡る魚たちを描くくだりが私の頭の中で重きをなしはじめます。ぼろぼろに傷つき、多くが途中で命を落とすほどの過酷な状況にありながら遡上をやめない魚たち。己やその置かれた状況を可哀想と思う節も、息絶えていく同種の生が息絶えていくのを振り返る様子もなく、ただただ産卵地点にたどり着こうとする彼ら。



挿絵 TAKAKO

そこで唄われるこのフレーズ。「ファイター！ たたかう君の歌を 戦わない奴らが笑うだろう ファイター！ 冷たい水の中を震えながらのぼっていけ」この、昔に比べ、また現代の他国に比べ生きやすい、命を脅かす事象が極端に少ない平和な今の日本にあつて、私は自分を幸せでない、恵まれていないと己に言い聞かせてしまうことがあるな、と。もちろん、生きていくうえで簡単でないこと、気持ちの良くないこと、苦しいこと、もうやめてしまいたいと思うような逆境はあるけれど、魚たちは私たちから見れば酷い逆境も、当たり前のこととして淡々と生きていく。命さえ落とすような状況下であっても、おそろくそれと闘う、頑張るといふ意識さえ持たずに、ただただ自分の生まれた場所に帰って行く。歌詞の『たたかう』は、ただ、魚たちが

がそうしているように、使命に生きることで、  
『たたかわない』というのには、魚のレベルほどには、生きる目的を直視せず生きていくこと。もし生きる目的が己の中で、魚と同じ程にはっきりしたのなら、苦しくても、負けるかも知れなくても、笑われても、ただただ生を全うしようよ、という、心が重たくて動けない人へのエール。だから、ここでの『ファイター！』は、頑張り、負けるな、そういう重たい意味のある言葉ではなく、例えば学校帰りのランドセルを背負った子供たちがキャーキャー笑いながら叫ぶような、軽やかな『ファイター！』っていう音。考えこんちゃって、深い悩みの螺旋に入ってしまった若い僧侶に、禅の高僧が尺でピシャッと叩きながら発してくれる『喝！』みたいな、気合い。それを聞いたら、さあ、また、のぼっていけ！って思えるようになって。。私はこの歌にそんな大事なことを教えてもらいました。

私の唄う「ファイター！」を動画サイト「YouTube」にて視聴いただけます。このQRコードを読み取るか、YouTubeにて「佐藤洋祐 ドラゴンへの階段 ファイター」と検索してください。見つけていただけます。私が動画を載せている「フォーカスパブリック」というチャンネルは、千葉県の有志の若者達による地域おこしを目的とした団体の動画チャンネルです。

↑上のQRコードを読み取ってください！

佐藤 洋祐 (サトウ ヨウスケ)

ジャズミュージシャン。サクソフォーン奏者としてグラミー賞を2度受賞、ノミネートは4度。海外での活躍で世界的に高い評価を得た。その後2015年末千葉県に住まいを移し現在に至る。2019年よりシンガーとしても活動を開始。